

科目区分：総合科学科目

| | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|-----|-------------------|----------|----|-------------------|-------------------|-------------------|
| 授業科目名 | 平和講座 | | | | | 学期 | 曜日 | 校時 |
| 英語名 | On the Peace | | | | | 前期 後期 後期 | 金曜日 火曜日 木曜日 | 4校時 3校時 4校時 |
| 担当 教員名 | 安部 俊二 他 | 単位数 | 2単位 | 必修 選択 | 選択 | | | |
| 授 業 担 当 教 員 | | | | | | | | |
| 舟越 耿一、谷川 昌幸、三根 眞理子、安部 俊二、生野 正剛、戸田 清、曾 文彬 藤澤 秀雄、岩松 繁俊、葛西よう子、西岡 由香、篠崎 正人、小峰 秀孝、迎 洋子 | | | | | | | | |
| 授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法 | | | | | | | | |
| <p>この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若き男女が航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。</p> <p>本講座はその決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものです。</p> | | | | | | | | |
| テ キ ス ト 、 教 材 等 | | | | | | | | |
| 教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またビデオやスライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立てる。 | | | | | | | | |
| 対象学生 | 成績評価の方法 | | | | | 教員研究室 | | |
| 全学部 | 課題レポート 50%と授業への参加状況 50%を考慮して行う。 | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | | | |
| 授業内容は次のとおり。 授業は各クラスとも5~7名の講師によって分担して行われる。 | | | | | | | | |
| Aクラス 前期金曜日 4校時 | | | Bクラス 後期火曜日 3校時 | | | Cクラス 後期木曜日 4校時 | | |
| 4月15日 | 舟越 耿一 | | 10月 4日 | 舟越 耿一 | | 10月 6日 | 舟越 耿一 | |
| 4月22日 | 藤澤 秀雄 | | 10月11日 | 藤澤 秀雄 | | 10月13日 | 藤澤 秀雄 | |
| 5月 6日 | 休講 | | 10月18日 | 谷川 昌幸 | | 10月20日 | 曾 文彬 | |
| 5月13日 | 西岡 由香 | | 10月25日 | 谷川 昌幸 | | 10月27日 | 曾 文彬 | |
| 5月20日 | 西岡 由香 | | 11月 1日 | 安部 俊二 | | 11月10日 | 舟越 耿一 | |
| 5月27日 | 岩松 繁俊 | | 11月 8日 | 安部 俊二 | | 11月24日 | 舟越 耿一 | |
| 6月 3日 | 藤澤 秀雄 | | 11月15日 | 藤澤 秀雄 | | 12月 1日 | 藤澤 秀雄 | |
| 6月10日 | 藤澤 秀雄 | | 11月22日 | 藤澤 秀雄 | | 12月 8日 | 藤澤 秀雄 | |
| 6月17日 | 藤澤 秀雄 | | 11月29日 | 藤澤 秀雄 | | 12月15日 | 藤澤 秀雄 | |
| 6月24日 | 岩松 繁俊 | | 12月 6日 | 葛西よう子 | | 12月22日 | 迎 洋子 | |
| 7月 1日 | 岩松 繁俊 | | 12月13日 | 葛西よう子 | | 1月12日 | 三根眞理子 | |
| 7月 8日 | 藤澤 秀雄 | | 12月20日 | 葛西よう子 | | 1月19日 | 三根眞理子 | |
| 7月15日 | 舟越 耿一 | | 1月10日 | 小峰 秀孝 | | 1月26日 | 生野 正剛 | |
| 7月22日 | 篠崎 正人 | | 1月17日 | 戸田 清 | | 2月 2日 | 生野 正剛 | |
| 7月29日 | 篠崎 正人 | | 2月 7日 | 戸田 清 | | 2月 9日 | 舟越 耿一 | |

講師名**講義題目**

| | | |
|-------|---|-------------------------------|
| 舟越耿一 | 長崎及び文教キャンパスの二つの顔 平和的生存権と有事体制 | イラク戦争と朝鮮有事 報復の連鎖を断つことばを求めて |
| 藤澤秀雄 | 自伝的昭和史 1. 小学生から見た日本の戦争 戦争は如何にして始まり、如何にして終了したか 児童や生徒は如何にして戦争を過ごしたか 戦後に何があったか(墨塗り) 2. 戦争とは何か、戦場とは何か、そこで何が行われたか 日本の中国に対する戦争(第二次上海事変から南京占領まで、その他) 米軍の日本に対する戦争(飛び石作戦、艦砲射撃、空襲、沖縄戦、その他) 3. 戦時におけるアメリカ合衆国の戦争 マッカシー旋風、朝鮮戦争、ベトナム戦争、アフガニスタン戦争、 イラン・イラク戦争、その他 冷戦終了後の戦争、特にイラク戦争について | |
| 西岡由香 | 世界から見たナガサキ - 90分間地球一周 パレスチナの窓から日本が見える | |
| 岩松繁俊 | アメリカ合衆国の日本の都市への原爆投下の目的、 ソビエト社会主義共和国連邦(現ロシア)の対日参戦と日本の無条件降伏、 天皇制問題、日本の戦争責任とアメリカの戦争責任 原爆と原発との関係、被爆国日本の原発推進政策 核による人類破滅の危機、ラッセル・アインシュタイン宣言、反核・非核の運動 | |
| 篠崎正人 | 有事体制と長崎・佐世保 | |
| 谷川昌幸 | 途上国の構造的暴力と紛争 紛争の平和的解決と再発予防 | |
| 安部俊二 | 15年戦争 100年遅れのアヘン戦争 | |
| 葛西よう子 | 戦争と女性 戦争被害者としての女性 慰安婦、従軍看護婦、勤労動員、中国よりの引き揚げ、戦争未亡人と出征中の妻 戦争加害者としての女性 愛国、国防婦人会における戦争協力、 参政権運動をたたかっている婦人たちの国家意識と戦争協力 戦争遂行のための国家の女性観 第二次世界大戦からコソボ、アフガニスタンまで ジェンダーの視点から戦争と国家を考える | |
| 戸田 清 | 戦争と環境破壊 直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力 | |
| 曾 文彬 | 中日関係の歴史とその啓示 中日両国は協力し合って、アジアの平和と繁栄のために努力しましょう | |
| 三根真理子 | 長崎原爆と医科大学 原爆直後の調査 被爆者の健康管理 | |
| 生野正剛 | 外国人労働者の人権 | |